

## 施設ニラの生育時期別吸水量



写真 ポット試験の様子

注) 吸水量=蒸発散量(ニラあり)-蒸発量(ニラなし)

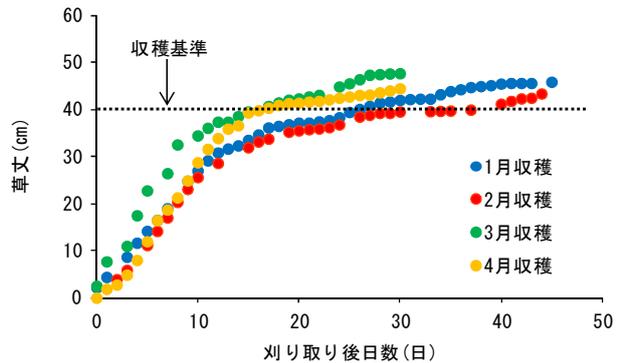


図1 各収穫期における草丈の推移

表1 各収穫期におけるニラの重量、全天日射量および最大吸水量

項目	1月収穫	2月収穫	3月収穫	4月収穫	
収穫時生重量(g/ポット)	211 (100)	227 (108)	267 (127)	294 (139)	
晴天日	平均全天日射量(MJ/m <sup>2</sup> )	11.7 (100)	14.8 (127)	19.6 (168)	23.1 (198)
	平均吸水量(ml/ポット)	168 (100)	191 (114)	294 (175)	392 (233)
最大吸水量(ml/ポット)	293 (100)	413 (141)	547 (187)	743 (254)	

注1) 晴天日とは、日照時間および全天日射量が平年値以上の日と定義した。

注2) ( ) は1月収穫に対する指数

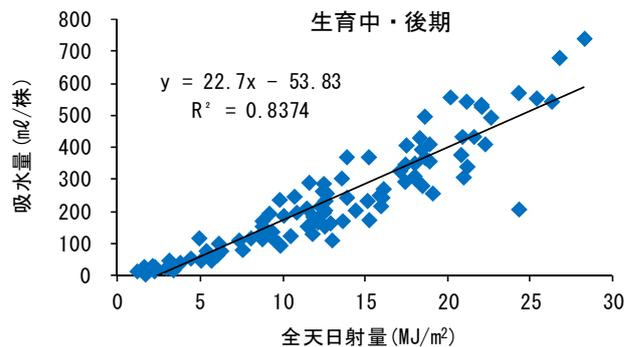
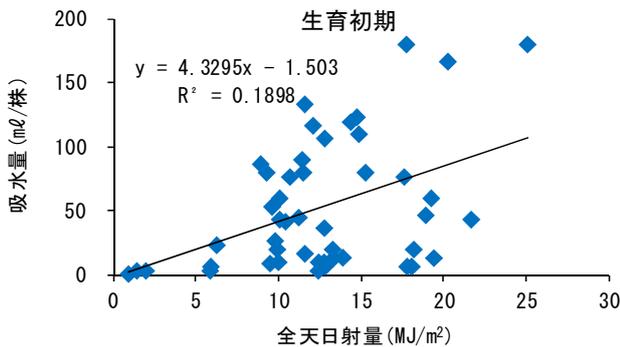


図2 全天日射量と吸水量の関係

近年、高知県の施設園芸品目では、炭酸ガス施用など環境制御技術とともに、日射比例制御によるかん水技術が導入され始めています。適正なかん水量を設定するためには、日吸水量を明らかにする必要がありますが、これまでニラでは調査事例がありませんでした。

そこで、冬から春に向かう施設ニラ栽培における日吸水量を調査し、生育や全天日射量(以下、日射量という)との関係を検討しました。

8月31日に‘ミラクルグリーンベルト’を1/2,000aワグネルポットに定植し、11月25日に刈り捨てたのち、調査を開始しま

した。

草丈は、いずれの収穫期においても刈り取り後10日前後を境に伸長速度が大きく異なりました(図1)。晴天日の日射量は、収穫月が遅くなるほど多く、これに伴い吸水量も多くなりました(表1)。また、各収穫期ごとの生育初期(初め1/3の期間)の吸水量は、日射量ではなく生育日数の影響が大きく(データ略)、生育中・後期に日射量の影響が大きいことが明らかとなりました(図2)。

次作では、本試験データを参考としたかん水管理を行う予定です。

(土壌肥料担当 糸川修司 088-863-4915)